

Tinybopは全てのアプリでアーティストと協働しています。
植物～あそんでまなぼうは、フランス人イラストレーターの
Marie Caudryが手掛けたオリジナルイラストを特徴として
います(<http://mariecaudry.free.fr/>)。



MARIE CAUDRY へのインタビュー

あなたの作品には決まったやり方がありますか? それはどんな
ものですか?

コーヒーを飲み、コンピューターの電源を入れて、メールをチェ
ックします。好きなポッドキャストを聞いて、コーヒーを飲みま
す。Tumblrでストーリーがひらめくような変な写真を1～2枚見る
こともありますね。そんな写真は後々のため大事にとっておきま
す。そしてまたコーヒー。それから、Orme、Chocolate、Falaïse、
Printemps Vertというプレイリストから一つ選びます。そしてコーヒ
ーを飲んで、仕事を始めます。コーヒーの飲みすぎですね。

作品で使うトップツールは何ですか? (お気に入りのペン、水彩
絵の具、プログラム、お守りなど)

2Bの0.5mmシャープペンシルと0.18の製図ペン、これで描きた
いものは描けます。ずっと使っていないで忘れていたかもしれな
いけど。それからアイボリーの水彩紙です。





ですが、細かいところにこだわろうとすると、例えば木の後ろにある岩やそのまた後ろにある茂みなどを描くなどというのは気が遠くなりそうな仕事です。本ではフォーマットに合わせて水平でトリミングされたシェイプを作っていましたが、アプリでは新しい枠組みを取り入れました。これは非常に新鮮で、新しい世界が開けました。

道具という意味では、タブレットを手に入れようと思っています。

すごく時間がかかった仕事なのに、物理的なスペースをとって書斎を埋めることがないのって変な気持ちですね。私のキャリアには新しいステップみたいです。

植物は数々の研究結果に基づき8つの生物群系 (バイオーム) をカバーしています。あなたはどのようにしてこの研究結果を、あなたの個性的なスタイルを保ちつつまとまりのあるイラストレーションにしたのですか？

私のスタイルは、“ligne claire” (クリアで影や暗い部分のない輪郭線)、自分の色合い、持ち味である細部のセンスといったものをほぼシステムチックに使っているところから来ていると思います。そこに、何と言ったらいいか難しいですが、ペンのストロークで出るイラストレーターとしてのユニークな個性も入っているといいますが。

あなたのスケッチはユーモアに溢れていますね。これは意識的にしたことですか？

ええ、私は自分の絵で遊ぶんです。ちょうど子供が動くおもちゃで遊ぶみたいに、キャラクターや意思、存在感を与えて話しかけるんです。意識してやっていることではありませんけどね。仕事で充実している瞬間というのは、絵と「共謀」している時です。私の絵は子供向けなので、この小さい読者の皆さんには特別、柔らかさとユーモアを届けたいと思っています。

描くのが最も楽しかった生物群系 (バイオーム) はどれですか？

ツンドラが大好きです。今はこの雄大で冷たい空間に本当に夢中です。澄み切った空気と噛み付くような寒さが生んだコントラストは非常に鮮明で、これを色で表現しようと思いました。

落葉樹林の夜を描くのもとても好きでした。夜の森では不思議でステキなことが起きているんですよ、真夏の夜の夢のようにね。

来週から、マングローブの湿地帯に行くんです。もう本当に楽しみです。



細やかでユニークなイラストは「植物 ~ あそんでまなぼう」にスピリットとユーモアを与えてくれます

以前にアプリの仕事をしたことがありますか？ このメディアはあなたのアプローチにどのように影響しますか？

いいえ、アプリの仕事をしたことはありませんでした。ふつうは本の挿絵を描いたりユースプレスの仕事をしています。でもコンピューターで絵を描くの慣れてからは、紙がなくても不自由なくなりました。

あなたの分野以外で、感心するのは誰の作品ですか？ またその理由は？

私の分野以外？無理です、尊敬するのはアーティストだけですから。

間違いなく尊敬の対象なのは、宮崎駿、ウェス・アンダーソン、マイケル・ゴンドリーですね。信じられないくらい豊かなイマジネーションを、優雅に表現しています。大衆向けの作品を出しながら、ほとんど個人的な映像のように複雑かつ真の意味でオリジナルです。

小説家もたいてい尊敬しています。イメージを言葉にできるんですから。

コンテンポラリーアートの展覧会にはよく行きます。私に真っ向から向かってきて驚きを与えてくれ、自分の先入観でできた心の檻から私を揺さぶり出してくれます。

Daniel Clowesも好きですね。彼の作品では、私が小説を読んだ時に想像するのと同じくらい面白いキャラクターがイキイキと存在しているんです。こんなコミックはめったにありませんし、なかなか見つからないと個人的には思います。

フランスにあるMarieの緑に囲まれた自宅



もしあなたが3人の人たちからパワーを吸収して作品に使うことができるとしたら、誰からのどんなパワーを選びますか？

ソール・スタインバークの創造性には憧れますね。映画“The Party”でのブレイク・エドワーズとかジャック・タチ作品のユーモアもです。あと、William Steigのラインと文章の魅力も。

あなたが生活している場所について少し教えてください。その場所は作品に影響しますか？

展覧会やショーを見に行き、心を豊かにしてくれる大きな街を訪れるのは大好きです。そういったものはいつもとても刺激的ですけど、都市に住みたいとは思いません。心の奥深くで徐々に何かが擦り切れていく気がします。

3年ほどフランス中部(アルデシュ県)の、ひっそりとした山の中に住んでいたことがあります。この風景に強いつながりを覚えたのです。ここでは、空想力から生じたイメージと、現実にしつかりつながる慣れ親しんだ美というものが、他よりゆっくりした時間の中で幾重にも重なっていました。その後平地に戻り、地中海的な気候の中で暮らしました。そこの風景にインスパイアされることはあまりありませんでしたが、太陽が年中降り注ぐ家に住むのは、家の中でばかり仕事をする自分にとって大切なことでした。

どこでインスピレーションを求めますか？

初期のディズニーアニメ、特に「シリー・シンフォニー」はとても好きです。

構成や色、ディテールのアイディアが必要なときには、絵画や古代彫刻とか、20世紀の写真も見ます。

あなたが夢見るプロジェクトは何ですか？

このTinybopプロジェクトはタブレットアプリが持つ幅広い可能性を開くものでしたから、インタラクティブなフィクションを作りたいですね。子供たちを対象としたお話の舞台となる世界まるごとを。

子供の頃、一番大切にしていたものは何ですか？

子供の頃は、ほとんどもっぱら「こえだちゃん」で遊んでいました。この“Surprise Planet”のおもちゃは素晴らしくて、3つの世界があり、地球のベッド、宇宙のベッド、海のベッドがあったんです。私は宇宙に広がっていくイラストがとても好きでした。本当に驚きでした。これは友達のオモチャでフランスではもう売ってなかったので、持っている人形全部と引き換えにしてもらったんですよ。全然後悔することはありませんでしたね(多分その子も)。

今のあなたの読書リストには何がありますか？

最近では"Green Dolphin Country"と"To Kill a Mockingbird"が面白かったです。イーディス・ウォートンの"The New York Stories"をちょうど読み終わったばかりで、今読んでいるのはCeline Minardの"Faillir être flinguée"です。すごくよくできたウェスタンで、ワクワクします。本当に楽しいですね。自分でそうしようと思っているわけではないのですが、特に女性作家の作品ばかり読んでいるみたいです。

子供の頃は、ヒロインの描かれ方がいつも弱い立場だったり、アドベンチャーものでもお飾りに過ぎなかったりするのが不満でした。不公平ですね！

あなたが気に入っている子供向けの本、映画、ゲーム、おもちゃは何ですか？

現代作家ではAurore Caillasの大ファンです。彼女の作品はどれも大好き。絵、世界観、ストーリー、文章も。

Blexbolex、Gaetan Doremus、Marc Boutanvan、そしてBeatrice Alemagnaの作品はいつもよくチェックしています。それからManuel Fior、Brecht Evans、Blutch、Daniel Clowes、Charles Burns、Lucie Durbiano、Anouck Ricard...彼らの作品はどれも胸に響きます。

William Steig、Claude Ponti、Kitty Crowther、Arthur Geisert
はまさに子供と一緒に読みたい本なので、よく読んであげてい
ます。

子供の頃から好きだったのは、Hilary Knightがイラストを描いた Kay ThompsonのEloiseです。これにはいまだに影響を受けています。



Marieのお気に入りの児童書作家:

**Beatrice Alemagna (上)、Aurore
Caillas (右)、Brecht Evens (下)**

